

加賀検定

第3回 加賀ふるさと検定試験問題

上級（全60問）

2015年 11月29日

加賀ふるさと検定・おもてなし講座実行委員会

各問題に対して、それぞれ①～④までの選択肢の中に正解が1つあります。解答用紙に、正解と考える番号を1つだけ○で囲って下さい。(黒色のエンピツもしくはボールペンを使用のこと)

- 1 旧石器時代の終わり頃から縄文時代始め頃の遺跡と推定される () からは、斧形石器や槍先形尖頭器が出土している。
①永井遺跡 ②塩浜海岸遺跡 ③橋立大野山遺跡 ④大堰宮遺跡
- 2 出土した土器には東海・近畿系や関東系が含まれ、石器では中京系の石斧や長野県和田峠の黒曜石の石刃もあり、() は東西文化の接点であったことを示している。
①横北遺跡 ②藤の木遺跡 ③打越遺跡 ④保賀遺跡
- 3 柴山出村遺跡から出土した柴山出村式土器は東北地方の影響が強く、() の様式を色濃く残していると言われている。
①縄文時代中期 ②縄文時代晩期 ③弥生時代前期 ④弥生時代中期
- 4 片山津玉造遺跡から発見された管玉くだたまの原石は、動橋川上流域で採取した緑色凝灰岩質の() とみられる。
①頁岩けつがん ②安山岩あんざんがん ③滑石かつせき ④珪岩けいがん
- 5 加賀市の() 遺跡は、建造物の規模や墨書土器などの出土品から見て、飛鳥・奈良時代における郡の中心官庁か有力豪族の住居跡と考えられる。
①加茂 ②西島 ③庄 ④七日市
- 6 文永 10 年、熊坂庄をめぐって、領家である() と地頭おおみさねやすの大見実泰との間で争いが起きたが、鎌倉幕府は同庄を領家と地頭わよちゅうぶんで土地を折半する「和与中分」とした。
①高辻家 ②園家 ③徳大寺家 ④中院家
- 7 北陸一円では、蓮如上人のもとで急速に浄土真宗が広まったが、その背景には浄土真宗の本尊が() の本地仏である阿弥陀如来であったことが影響したと考えられる。
①白山御前峰ごぜんがみね ②白山大汝峰おおなんじがみね ③白山別山べっさん ④立山雄山おやま
- 8 文明 18 年頃、江沼郡の門徒が蓮誓を山田坊に迎え、山田光教寺が成立したが、蓮誓は基盤強化のため、さらに() 坊や瀧野坊を創建した。
①九谷 ②菅谷 ③黒瀬 ④南郷
- 9 弘治元年、越前の朝倉宗滴が江沼郡に進撃し、一揆勢を潰滅させようとしたが、このとき、宗滴は() の金吾ヶ城に本陣を構えた。
①錦城山 ②朝日山 ③敷地山 ④観音山

- 10 大聖寺の本善寺に伝わる古九谷色絵孔雀図平鉢こくたにいろえくじゃくずひらばちは初期九谷焼の伝世品と推測され、技法の特徴から初期（ ）の色絵陶器や明末の色絵磁器に類似することが指摘されている。
 ①有田焼 ②瀬戸焼 ③京焼 ④美濃焼
- 11 大聖寺藩 14 代藩主前田利としか鬯あつらの元服の際に誂うのはないとおどしにまいどうわらべぐそくえたとされる卯花絲威二枚胴童具足は、利鬯が藩主となる前、加賀藩の（ ）家を相続していた頃に作られたものである。
 ①前田対馬守 ②前田出雲守 ③前田土佐守 ④前田大和守
- 12 深田町の「鏡の池」には、篠原の戦いで斎藤実盛が髪を染める際に使ったとの伝承をもつ和鏡が、（ ）製の容器に納められ、池の底に安置されている。
 ①凝灰岩 ②粘土 ③銅 ④真鍮
- 13 大聖寺藩では、14 代藩主前田利鬯が宝生流の能楽普及に力を注いだため、現在でも毎年正月 2 日のお松囃子に、錦城能楽会により「高砂」たかさご（ ）「猩々」しょうじょうの 3 番が演じられている。
 ①「実盛」 ②「安宅」 ③「敦盛」 ④「東北」
- 14 江沼郡出身の天台宗の僧侶である延昌えんしょうの事績をもとに創作された謡曲『敷地物狂』しきじものぐるいは、（ ）の作と言われている。
 ①観阿弥 ②世阿弥 ③金春禅竹 ④音阿弥
- 15 音韻学者の明覚は、延暦寺で学び、山代の温泉寺に隠棲し、（ ）などの研究成果を著して我が国の 50 音字の配列に大きな影響を与えた。
 ①口遊くちざさみ ②孔雀経音義くじゃくきょうおんぎ ③いろは歌 ④悉曇大底しったんたいてい
- 16 江沼郡赤尾を拠点とした一向一揆の大將藤丸新介は、朝倉宗滴の南郷城侵攻で敗退した後、天正 10 年、柴田勝家との戦いで敗れ、（ ）において自刃したとされる。
 ①魚津城 ②高岡城 ③七尾城 ④末森城
- 17 丹羽長秀の与力溝口秀勝は、天正 11 年に（ ）の大聖寺城主として江沼郡を統治した。
 ①4 万石余 ②5 万石余 ③6 万石余 ④7 万石余
- 18 小早川秀秋の家老山口玄蕃げんぱは、慶長 3 年に 7 万石の大聖寺城主として江沼郡を統治した。玄蕃は（ ）の出身で、茶の湯や能楽に通じる当時の文化人であった。
 ①筑前国 ②筑後国 ③大和国 ④山城国

- 19 大聖寺城代の初代、太田長知^{ながとも}は、慶長7年、加賀藩2代藩主前田利長の命により利長の重臣（ ）によって金沢城^{ざんざつ}で斬殺された。
①横山長秀^{ながひで} ②近藤長広 ③横山長知^{ながちか} ④小塚権太夫^{ごんだゆう}
- 20 大聖寺藩祖前田利治は、承応2年に藩財政不足のため、家老の玉井市正をはじめ、家臣（ ）を加賀藩へ返還した。
①14人 ②24人 ③34人 ④44人
- 21 大聖寺藩初代藩主前田利治は九谷村・熊坂村に金山を、（ ）村に銀山を開発した。また、木地師の保護や九谷焼の製造など殖産興業に努めた。
①曾宇 ②片谷 ③塔尾 ④大土
- 22 大聖寺藩では、塩屋、小塩、瀬越、塩浜、片野村などで漁業が盛んであった。このうち、塩屋村の漁船（漁船）数は、天保15年、領内で最も多い（ ）であった。
①15艘 ②25艘 ③35艘 ④45艘
- 23 柴山潟では、戦前まで「ツケ」という特殊漁法が行われていた。これは晩秋に（ ）の枝を潟端に沈めて置き、早春にその回りに立網を張り、魚を獲る漁法であった。
①マツ ②サクラ ③スギ ④クヌギ
- 24 大聖寺藩2代藩主前田利明は、寛文年間に、山城、（ ）の両国から茶の実を購入し、領内の村々に配分した。
①駿河 ②美濃 ③近江 ④大和
- 25 大聖寺藩の橋立・塩屋・瀬越村からは、多くの北前船主や船頭がでた。寛政8年の「船道定法之記」には、橋立村に北前船主や船頭が（ ）いたと記されている。
①32人 ②42人 ③52人 ④62人
- 26 大聖寺藩では、正徳2年に、農民が問屋や十村宅を打ちこわす百姓一揆（正徳一揆）が起こった。このとき、山代村の十村（ ）が打ちこわしに遭った。
①堀野新四郎 ②河原屋安右衛門 ③和田半助 ④鹿野小四郎
- 27 参勤（参観）は江戸へ行くこと、交代（就封）は国元へ帰ることをいうが、大聖寺藩では、藩政期230年の間に、参勤交代を合わせて（ ）実施した。
①89回 ②121回 ③154回 ④181回

- 28 大聖寺藩では、文政8年の異国船打払令を契機に塩屋・橋立・日末の3ヶ所に御台場を築造した。塩屋御台場には、嘉永3年(1850)に大砲()が置かれたという。
- ①1挺 ②3挺 ③5挺 ④7挺
- 29 大聖寺藩では、5代利直の42ヶ年や2代利明の33ヶ年を除けば、在任期間の短い藩主が多かった。特に、13代利行としみちの在任期間は最も短い()であった。
- ①5ヶ月 ②8ヶ月 ③11ヶ月 ④1年2ヵ月
- 30 明治4年7月には、廃藩置県みことのりの詔により大聖寺県が誕生した。大聖寺県は、同年、金沢県に合併されたので、()間での廃県となった。
- ①1ヶ月 ②4ヶ月 ③8ヶ月 ④10ヶ月
- 31 大聖寺藩は、明治3年(1870)に浦上キリシタン50人を預かり、庄兵谷の鉄砲場の長屋に収容して仏教への改宗を迫った。このとき、改宗者は()であったという。
- ①12人 ②18人 ③35人 ④42人
- 32 明治政府は、明治11年に太政官布告で天皇の北陸道・東海道の巡幸を公布した。この巡幸は右大臣岩倉具視や参議大隈重信ら、総勢()を従えて行われた。
- ①182人 ②346人 ③567人 ④798人
- 33 明治政府は明治4年に文部省を設立し、同5年に学制を公布した。江沼郡大聖寺には、錦城・京達・有隣・()の4小学校が設立された。
- ①開陽 ②旗陽 ③得知 ④新知
- 34 昭和23年、福井県丸岡町付近を震源とする福井地震が起こった。このとき、江沼郡では、死者()、負傷者451人、住宅全壊791戸など、甚大な被害を受けた。
- ①18人 ②39人 ③68人 ④87人
- 35 大聖寺藩士()は、弘化2年(1845)に領内の地誌、神社仏閣記、藩士の紀行記、諸家の碑銘などを集めた『藩国見聞録』を著した。
- ①小塚秀得 ②塚谷沢右衛門 ③奥村永世 ④宮永理右衛門
- 36 馬島健吉は、初め、金沢の黒川良安に学び、さらに大坂の緒方洪庵の適々齋塾に入門、蘭学を修めた。その後、()と共に渡欧し、外科・内科・眼科などを学んだ。
- ①石川たかし 嶂 ②渡辺わたなべ 卯三郎 ③竹内たけのうち 玄同 ④樫田かしだげん 玄覚

- 37 飛鳥井清は、明治 10 年に旧大聖寺藩士の柿沢理平を工場長にして「加州松島社」を創設し、鉛筆製造を始めた。理平の墓は（ ）境内にある。
 ①全昌寺 ②久法寺 ③宗寿寺 ④実性院
- 38 深田久弥は、昭和 8 年に、小林秀雄らと（ ）を創刊し、「呼ぶ冬山」「一家」「一昼夜」「街」などを発表した。
 ①新思潮 ②改造 ③文芸春秋 ④文学界
- 39 大聖寺藩では、城下の西端に関所、越前との国境である吉崎村、風谷村、（ ）などに口留番所くちどめばんしょを置き、往来人を監視した。
 ①橋村 ②熊坂村 ③九谷村 ④真砂村
- 40 大聖寺藩主（ ）は、鷹狩りや遊芸を好み、藩政をかえりみず、天明 2 年に加賀藩主 11 代前田治脩はるながから金沢城幽閉ゆうへいを命じられた。
 ①4 代利章としあきら ②5 代利道 ③6 代利精としあき ④7 代利物としたね
- 41 江沼平野から続く海拔 100m 以下の低地山間部は（ ）と呼ばれている。
 ①加賀砂丘 ②江沼丘陵 ③加賀台地 ④白山台地
- 42 日本列島の地層で最も古いとされる飛騨変成岩の地層が、加賀市の（ ）付近でも見られる。
 ①尼御前岬 ②加佐ノ岬 ③錦城山 ④山中温泉九谷
- 43 富士写ヶ岳では、（ ）、キクザキイチゲなどのようなスプリング・エフェメラルと呼ばれる春植物が多く見られる。
 ①ニチニチソウ ②カタクリ ③キンモクセイ ④サルスベリ
- 44 加賀市には、ため池が多く、そのため、（ ）のような止水性のトンボを多く見かける。
 ①ハグロトンボ ②オニヤンマ ③ギンヤンマ ④ムカシトンボ
- 45 加賀市内でも外来種の動物が多く生息し、生態系に大きな影響を与えているが、私たちがよく見かける（ ）も外来種である。
 ①キジバト ②カラスバト ③ドバト ④アオバト
- 46 昭和 30 年頃から、当地方でも電気洗濯機が普及し始めたが、それまでは、盥たらい、洗濯板、（ ）の 3 点が、娘が他家に嫁ぐ際の必需品となっていた。
 ①洗濯箱 ②干し物竿 ③張り板 ④洗濯棒

- 47 戦後においても、農民や漁師など外で作業をする人々の多くは、麻や木綿を織り込んだ（ ）と称する作業着を着た。
①サックリ ②ハバキ ③ハオリ ④タンゼン
- 48 昭和40年頃までは、市内の多くの家では、夏の夜、蚊に喰われないように、就寝の際は部屋に（ ）を吊るして寝ていた。
①蚊屋 ②蚊帳 ③蚊椰 ④蚊家
- 49 例年、4月に行われる大聖寺の桜祭りは、（ ）の春祭りである。
①江沼神社 ②菅生石部神社 ③加賀神明宮 ④大原神社
- 50 加賀や越前などで古くから作られてきた、サトイモの茎を利用した郷土料理「ズイキの酢の物」は別名（ ）とも呼ばれる。
①ツキ ②スコ ③クズ ④ズッコ
- 51 山中温泉には、天然記念物の大杉が何本もあるが、このうち、菅谷町八幡神社の大杉は別名「（ ）の大杉」と呼ばれている。
①二又 ②三又 ③親子 ④天覧
- 52 山代温泉の薬王院が所蔵するには、（ ）は、白山五院の一つ大聖寺の後身、慈光院にあったもので、白山信仰の遺品として貴重なものである。
①泰澄大師尊像 ②五輪塔 ③木造十一面観音立像 ④阿弥陀如来像
- 53 加賀市が所蔵する国指定の重要有形民俗文化財「白山麓の山村生産用具及び民家」と「白山麓の積雪期用具」は、（ ）から寄付されたものである。
①山下久男 ②新家熊吉 ③伊藤常次郎 ④稲坂謙三
- 54 平成22年度の加賀市の産業別就業者の比率を見ると、飲食・サービス業、旅館業などの第3次産業に従事する人口はおおよそ（ ）%を占めている。
① 40 ② 50 ③ 60 ④ 70
- 55 平成26年度版の石川県統計によれば、県全体の漁船総数は4,745隻となっており、そのうち加賀市は（ ）隻を占めている。
① 85 ② 173 ③ 385 ④ 654
- 56 昭和49年に、塩屋、橋立、（ ）の3つの漁業協同組合が合併し、「加賀市漁業協同組合」が誕生したが、現在は石川県漁業協同組合加賀支所となっている。
①片野 ②篠原 ③塩浜 ④黒崎

57 加賀市では、糖度の高い（ ）かぼちやの生産がおこなわれており、JA かが
では、これを原料とした焼酎を商品化している。

- ①小菊 ②さくら ③味平 ④打木赤皮

58 加賀商工会議所が設立されたのは、昭和 44 年 4 月 1 日のことで、その初代会頭には
（ ）が就いた。

- ①新家熊吉 ②吉田豊彦 ③矢田松太郎 ④山田泰三

59 九谷焼 360 周年にあたる本年 8 月、加賀市、小松市、能美市の 3 市は、東京の（ ）
で「九谷の系譜展」を開催し、会期中には天皇・皇后両陛下も鑑賞された。

- ①出光美術館 ②ステーションギャラリー ③森美術館 ④サントリー美術館

60 山中温泉の芸妓、初代米八よねはちが、レコード盤で民謡「山中節」を出したのは、（ ）
のことであり、これ以降、山中節が全国に広まったとされる。

- ①大正 8 年 ②昭和 2 年 ③昭和 8 年 ④昭和 18 年